



西川 正 Nishikawa Tadashi

真庭と同じ里山で生まれ育ち

真庭市立中央図書館館長に就任した西川正さん。西川さんが生まれ育った滋賀県高島町（現高島市）は、琵琶湖北部西岸の里山地域とのこと。今では聞き慣れてきた「里山」という言葉。滋賀県北西部は、この里山という言葉が広まるきっかけとなったテレビ番組の舞台となった地なのです。大学進学をきっかけに東京に出て、埼玉で子育てをしながら、「市民参加と子育て支援が専門。仕事に共通してきたことは、遊びと学びの場づくり」と、出版社や大学の専任教員、学童保育の運営、NPO活動や市民活動支援など、さまざまな仕事をしてきました。

ですが、実家で一人暮らしをしていたお母さんの病気を機に、昨年古里で過ごすことに。「子どもの頃遊んだ田んぼが荒れ、空き家が目立つように：古里が変わっていく姿を見るに、心が痛みました」と胸に宿題を抱えていました。

素敵な計画に胸を打たれて

これまでの経験を生かし、何かできることはないかと考えていたとき、中央図書館館長の依頼がありました。そして、「令和3年度に真庭市が策定した図書館みらい計画を読み、こんな素敵なことをみんなで考えられる図書館があるのなら、一緒にやらせてもらいたい。そして、私のルーツは真庭と同じ里山。抱えた宿題に取り組めるかも」と決意しました。

真

M A N I W A B I T O

庭人

子どもと大人約500人が参加するトークイベントなどを主催してきました



真庭市立中央図書館



西川 正さん(本郷)

昭和42年1月12日生まれ(55歳)
滋賀県高島町(現高島市)で生まれ育ち、埼玉県で子育てをしながら、NPO支援など行う。令和4年4月1日真庭市立中央図書館館長就任。座右の銘は「人生せっかくだから」。

みんなが参加する場づくり・まちづくりに取り組んできた西川館長。「図書館は、本を貸し出す場所ですが、本を介して人が出会う場、遊びの場、対話の場でもあると思います。真庭のことを教えてもらいながら、子どもも大人も一緒に活動できるみんなの場所にしていけたらと思っています。よいアイディアはおしゃべりから生まれます。図書館でおしゃべりしませんか。みんなでお待ちしています。」とにっこり笑って話してくれました。

